2026年 EVENT

1月1日	洞爺八幡神社歳旦祭 @ 洞爺八幡神社
1月3日	新春ゆーあいの家大抽選会 @ ゆーあいの家 (温泉施設)
1月31日、2月1、7、8日	スノーパーク in 仲洞爺キャンプ場 @ 仲洞爺キャンプ場
2月8日	おおたき国際スキーマラソン @ 大滝総合運動公園
2月21、22日	昭和新山国際雪合戦 @ 昭和新山山麓

湖畔犬

まめ ♂ 18歳

学芸員 小八木さんが教える
もっと楽しむ！

洞爺湖芸術館

プロフィール
2024年4月から洞爺湖芸術館に学芸員としてやってきました小八木（こやぎ）と申します。作品だけでなく景色も楽しめる洞爺湖芸術館。盛り上げる一助になれるよう頑張ります！

洞爺湖芸術館

洞爺湖町洞爺町96
9:30〜17:00
休 月曜（月曜が祝日の場合は翌日）
toyakomuseumofart

洞爺湖芸術館小八木さんが振り返る

夏の思い出と来年に向けて

2025年の夏、洞爺湖芸術館では、洞爺湖町出身の陶芸家・道川省三さんの作品展「THE INBETWEEN（火山と湖のあいだで）」を開催しました。窓の外に広がる洞爺湖と有珠山、作品が響き合い、一体となるような空間にすることができました。

道川さんが幼い頃見ていた風景が作品に息づく、洞爺湖ならではの展示になったと思います。オープニングイベントでは、洞爺ジャズクラブの演奏を背景に、道川さんがろくろを使った作品づくりを実演。出来上がった3点に、子どもたちが思い思いに花を活けました。会期中には子ども向けの陶芸ワークショップも開催し、土に触れる楽しさや作家との交流を通して、ものづくりの喜びを感じられる機会としました。これからも、芸術の喜びが生まれる瞬間を大切にしながら、所蔵作品を活かした展示など、地域に根差した企画を続けていきたいと思います。

2026年のオープンは4月1日です。
皆さまのご来館を
心よりお待ちしております 。

ゾクゾク登場！

新店舗情報

仲洞爺

キャンプ場と温泉施設に併設された
お酒も飲めるジビエのお店

味処 旅と人

壮瞥町字仲洞爺30-11
10:30〜L.O.18:00
休 月〜木曜
tabitohito_in_kimundonoie

洞爺

洞爺地区待望の夜営業
飲み放題2000円のプランもあります！

ToyaNoWa

洞爺湖町洞爺町127
11:00-15:00／17:00-22:00
休 木曜
toyanowa_hokkaido

洞爺

洞爺地区で移転 OPEN ！
温かいうどんでポカポカになろう

金沢屋

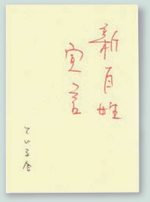
洞爺湖町洞爺町83
11:00〜L.O.14:00
休 月〜木曜
kanazawa_ya

BACKWOOD の
湖畔で読みたい本

虻田

BACKWOOD

洞爺湖町入江 265-55
12:00〜17:00
休 月曜
backwood.jp



新百姓宣言

著・おぼけん（ている舎）

人はなぜ生まれてきたのか、それは「つくる」を楽しむために生まれてきたと応える新百姓宣言。やりたいことをやれているか。楽しんで生きているか。年末年始にじっくりゆっくり何度でも読みたい 1 冊です。

LAKE TIMES
レイクタイムズ No. 06

洞爺湖のほとりの、ぐるりのこと。
この場所に大切なものを見出して暮らす、
わたしたちの新聞。

編集・ライティング・写真 森高まき（たまたま舎）、中村仁南
編集サポート 宮本好
デザイン 青山剛士（drop around）
イラスト スギモトアオイ
広報 渡辺沙央子
アドバイザー ZERODAY
協力 質問を寄せてくれた子どもたちとその保護者の皆さま、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、露崎史朗教授、ワカサリゾート株式会社

制作 とうや子プレス
発行 2025年12月25日
発行元 レークヒル・ファーム

あとがき

今回で第6号になりました。最低でも3年は続けようと思っておりましたが、第1号の発行が2023年8月なので次号で3年になります。おかげさまで地域の皆様や洞爺湖以外にお住まいの方からも好評をいただいておりますのでこれからも発行を続けていけそうです。すぐに地域に貢献するのは難しいと思いますが、50号くらいまで続ければ、きっと目に見えるレベルで何かが変わると信じて、これからも“自分たちの歩くスピード”で頑張っていきたいと思います。（レークヒル・ファーム 塩野谷通）

どの大人たちも、子どもたちからの質問をとてもうれしそうに聞いてくれたことが印象的でした。伝えたいことであふれているとのことだったので、これからもたくさん扉を叩いて、ドンドン登場していただこうと思っています！ そして、今号から頼りになる制作スタッフが増えました。とてもありがたくうれしいです。作っている自分たち自身が面白いと思える新聞づくりを、これからも続けていきます。（森高まき）

LAKE TIMES
設置店 募集！
laketimes_toya

本誌へのお問い合わせはこちら：
toyakopress@gmail.com

本誌からの無断転載を禁じます。
Copyright©LAKETIMES

2025.12 Winter — 洞爺湖のほとりの、ぐるりのこと。 — No. 06

TAKE FREE

LAKE TIMES

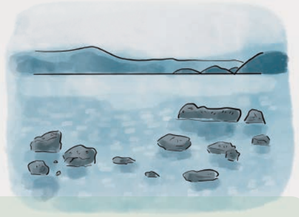
The surroundings of Lake Toya.
レイクタイムズ
Size : 273 × 406 mm
Page : 008

湖があり、火山があり、近くに海もある。大自然に囲まれたこの洞爺湖エリア。
全国的にも稀有な環境でありながら、ともすると暮らしのなかで「あたりまえ」の景色になってしまうこともしばしば。
そこで、私たちは子どもたちの視点に耳を傾けました。まっすぐで、自由で、思いもよらない問い。
その声が教えてくれるのは、この土地には、まだまだ気づいていない魅力があるということ。
さあ、一緒に子どものまなざしで地域を見つめていきましょう。

Photo by 文月ふみ

子ども科学 “しんぶん”相談

洞爺湖のまわりには、火山や湖…ふしぎがいっぱい。
今回の特集では、洞爺湖周辺に暮らすみんなから集まった
“なぜ？”を、科学者や専門家に聞いてみました。
その答えの先にあるのは、まだ知らない洞爺湖のひみつ。
さあ、一緒に学んで、もっと洞爺湖を好きになろう。



洞爺湖が深いのはなんで??

約11万年前にとても大きな噴火が起きたから

洞爺湖が深いのは、約11万年前の大きな噴火で地下のマグマが一気にふき出し、からっぽになった部分が崩れ落ちてとても大きな穴（カルデラ）ができ、その後雨水などがたまって湖になったからです。

洞爺小4年生
吉田陸斗くん

なんで大きい石（岩）がいっぱいあるところがあるのかな？

火山の活動でできた溶岩が冷えて固まったものだよ。

火山から噴き出した溶岩や火山岩が冷えて固まり、その一部が現在も湖に残っています。これらが大きな岩として見えているのです。

壮瞥小2年生
髙臣野ばらちゃん

有珠山は次、いつ噴火するんですか？

正確にはわかりません！

火山は「いつ」、「どこで」噴火するかを正確に予測するのはとても難しいんです。でも有珠山は噴火する前には 地震が増えたり地面が割れたりするなど、私たちに噴火が起きることをお知らせしてくれます。

火山のことはまかせて！

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学術専門員
金田皓樹さん

火山のかたちや土地の変化をわかりやすく学べる実験教材を作ったり、小中学生が地学を理解しやすくなる効果を調べたりしている。ジオパークでの学びを広げる活動にも力を入れている。

アメリカオニアザミはどうやって中島にきたのだろう？

風に乗ってきたか、あるいは人間が運んだか？

洞爺湖のまわりのどこかでできたタネが、風に運ばれて中島に届いた…という可能性があります。
もう1つは、島を歩いた人が、靴やズボンにタネをくっつけて運んでしまうということです。気づかないうちにタネを落としてしまうことがあるんです。両方の可能性が考えられるんじゃないかなと思っています。

洞爺中1年生
中川丈太郎くん

中島に生息しているアメリカオニアザミの繁殖力はどのくらい？

とにかくものすごいです…！

1つの株から、何千個、時には何万個ものタネをつくります。春に芽が出ると、その年のうちにタネをつけてしまうほど成長が早いです。自分ひとりでもタネを作れるので、他の花がなくても増えます。葉っぱにトゲがあってすごく痛いので、シカもあまり食べてくれません。だから、ほうっておくとどんどん広がってしまうんです。

北海道大学大学院
地球環境科学研究院
露崎史朗 教授

火山噴火や森林火災といった自然の移り変わりの仕組みを調べ、自然と植物を守り、元の姿に近づけていくための方法を研究している。

駆除の際は刈り取りを複数回行っています。

湖から見たら中島は小さく見えるのに丘に上がるとなぜ大きく見えるのだろう？

見え方の問題かなぁ？

とってもいい質問ですね。実際に中島が大きくなったり小さくなったりしているわけではないんです。たとえば湖の近くからだと島の一部しか見えず小さく見えますが、遠くや高いところから見ると全体が見えて大きく見えます。ほかにも水の反射や波でも見え方が変わることがあります。

洞爺小5年生
土肥ひかるちゃん

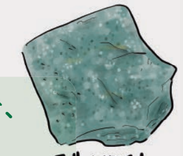
洞爺湖の色が毎日変わるのはどうしてだろう？

太陽の光や天気、水の中のものが関係しているよ。

朝や夕方は光がななめに当たるので洞爺湖が青い光を多く吸収し私たちの目には赤っぽく見え、昼は青空を映すので青く見えます。水の中の植物や泥なども色に影響しますし、場所によっても見え方が違います。自分のお気に入りの場所を見つけてみよう！

壮瞥小2年生
堂下つむぎちゃん

有珠山が赤く見えるのはなぜですか？



デイサイト

高温のマグマに焼かれることで、赤～い天然のレンガとなって張り付いたからだよ。

有珠山（昭和新山）が赤く見えるのは、そこにあった土が高温のマグマに焼かれることで、赤～い天然のレンガとなり貼り付いたからなんだよ。太陽の光の当たり方でも、もっと赤く見えることがあるので、ぜひ見に行ってみよう！ ちなみに、有珠山をつくっているのは、「デイサイト」と呼ばれる青白く見える溶岩なんです。正反対の色をしているんだね！

洞爺湖はなぜ丸いの？

中島の噴火でできた湖だからだよ！

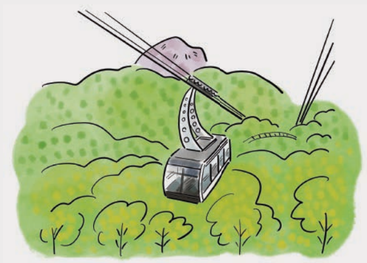
洞爺湖が丸いのは、大きな噴火で地下にあったマグマが一気になくなると、同じ力で下に落ちるからです。力がまわりに均等に広がるので、できた大きな穴は自然と円に近い形になります。そこに水がたまるため、洞爺湖は丸く見えるのです。自然の力って不思議ですね！

洞爺小6年生
廣田陽音くん

洞爺湖と支笏湖はつながってるって本当？

つながっていないよ！

洞爺湖と支笏湖は、つながっていません。どちらも大きな噴火でできた湖ですが、あいだには山や高い地面があり、水が行き来できません。地図で見ると近くにあるように見えますが、30km以上も離れているんです！ちなみにできたのは洞爺湖が約11万年前、支笏湖が約4万年前で、洞爺湖の方が先に誕生しています。



壮瞥小2年生
天野栞ちゃん

有珠山ロープウェイ、どうやって作ったんですか？

ワカサリゾート株式会社
有珠山事業部
飯田理さん

有珠山ロープウェイの「駅」をまとめる人。ロープウェイが安全に動くように、ワイヤーや機械の点検をしたり、天気を見ながら運転できるかどうかを判断したりしている。山に来る人が安心して楽しめるように、火山マイスターの資格も持っている。

ロープウェイの作り方を、一つひとつ説明します！

山の上とふもとをむすぶロープウェイは、こんなふうに作られていきます。

1. まず、「山の上の駅」と「ふもとの駅」をどこに作るか決めます。
2. その2つをつなぐ道すじを調べて、どこに柱を立てるか考えます。
3. 決めた場所の土や地面がしっかりしているかを調べます。
4. 問題がなければ、工事で使うトラックや重機が通れる道を作ります。（もし道が作れなかったら、ヘリコプターで荷物を運ぶこともあります！）
5. コンクリートを運んで、ロープウェイの柱を立てるための土台（基礎）を作ります。
6. 大きな柱を少しずつ運んで、クレーンで組み立てます。
7. 山の上の駅とふもとの駅の建物を作ります。
8. ワイヤーをピンッとはって、ロープウェイを動かす機械を取りつけます。ゴンドラをつけて、テスト運転。問題がなければ完成です！

加賀谷仁左衛門 さん

室蘭市出身。元駒沢女子短期大学教授。専門は生物学、生態学、農学。有珠山を近くで観測するために2003年に壮瞥町へ移住。2008年火山マイスター一期生。

16歳×84歳が語る

火山も、歴史も、大きなつながりの中で考える

いちこ さん

6歳から洞爺地区に引っ越した。よく湖畔で遊んでいたことから、土や石、火山に興味があり、いつか火山マイスターの資格をとりたいと憧れながらも現在は高校生活を謳歌中。

16歳のいちこさんが、84歳の火山マイスター・加賀谷さんに疑問をぶつけた。
68年の年齢差をこえて交わされたのは、知識よりも「どう生きるか」という話。
火山の町で暮らすとはどういうことなのか。世代をこえてつながる、静かな学びの対話。

いちこ：室蘭の学校の友達に「洞爺湖に火山があるの？」って聞かれてびっくりしたんです。こんなに近くても知らないんだなって。だから、火山の近くに住む私たちが、ちゃんと説明できるようになりたいなって。噴火のときって、何に備えればいいんでしょう？

加賀谷：難しく考える必要はないんですよ。大事なのは、あなた自身が“日常の中で考えておくこと”。若い人には若い視点があり、女性には女性にしか見えない角度がある。年を重ねた者には経験からわかることがある。自分の目で見て、自分の頭で考える。それが一番大切です。

いちこ：熊本地震のときSNSで情報を見て、自分で「防災ボトル」を作ったんです。ホイッスルと、水で膨らむタオル、緊急連絡先を入れた小さなボトル。それを通学バックの中にいつも入れてます。

加賀谷：すばらしいね。そういう工夫は、ぜひ学校の友だちにも教えてあげるといい。

いちこ：そういえば、友だちと湖畔で遊んでたら石を見つけたんです… 黒曜石かなって。（いちこさんが仁左衛門さんに写真を見せる）

加賀谷：わぁっ、これはすごい！ 私は同じ場所に3回行ったけれど見つけられなかった。いつ見つけたんですか？

いちこ：えっと…写真撮ってるから、日付を見ればわかると思うんですけど…。

加賀谷：そう、その“日付”が大事なんです。景色でも、人の名前でも、なんでも記録しておく。記録は未来の誰かを助けます。昭和新山の三松正夫さんがそうでしょう。噴火の変化を毎日同じ場所から描き続けたから、“三松ダイヤグラム”として残り、後世が学べる。残したものは歴史になる。

いちこ：次から絶対記録します！ひとつ疑問なんですけど、どうして噴火の多い場所に縄文人は暮らしていたんでしょうか？

加賀谷：いい質問です。当時は狩猟採集の時代だから、

海が近いことは大きな魅力だったでしょうね。それに、縄文時代の噴火周期は今と違う。たとえば1663年の噴火の前は、8000年〜1万年噴火の形跡がない。ここ最近の有珠山の噴火周期は20〜30年前後だけど、必ずしもそうとは限らない。自然は不規則なんです。「もうすぐ噴火する」と言われても、そうならないこともある。それからね、話は広がるけれど、人の歴史も同じように不規則で複雑です。実は最近の遺伝子研究で、ホモサピエンス（現代人）だけが残った、というシンプルな話じゃなかったということがわかっているんです。有名なネアンデルタール人だけじゃなくて、デニソワ人という、アジア寄りの地域にいた人たちもいてね。その3つの集団（サピエンス・ネアンデルタール・デニソワ）が、同じ時代にいて、あちこちで出会って、子どもを作っていた。その痕跡が、今では遺伝子から分かる時代になったんです。教科書では“他の人類は滅んだ”と書かれがちだけど、本当はもっと複雑で、むしろ一緒に暮らして混ざり合っていた。その知見がこの10〜20年で一気に変わってきて、これからの教科書はもっと更新されていくはずです。

加賀谷さんの自宅にコレクションしてある、黒曜石や頁岩（けつがん）を見せてもらい、鹿の角を使った石器づくりを教えてもらう。書斎の窓からはいつでも観察できるように昭和新山が見えている。

いちこ：ロマンですね。

加賀谷：そうですね。つまり、人間は、あなたたちがそうだったように、“住める場所”を見つければ移動し、定住し、文化をつくっていく。その背景には火山も海も季節も、災害も恵みも全部含まれる。その視点で見ると、洞爺のことも立体的に説明できるようになるんです。

いちこ：私は小学1年生の途中で洞爺に移住することになって、最初はどんな場所かわからないから、すっごく嫌でした。今ではこの地域でどう遊んだらいいのかわかって、ここに住んでる人たちも大好きです。

加賀谷：「ここに住みたい」っていうのはね、どこかから出てくるんですよね。きっとあなたのお母さんもそうだったはずです。それから、ここは嫌だから、あの山の向こうへ行こうとか。海があった。近いからあそこに行こうとか、その中で我々の祖先たちはね、考えたはずなんです。だから共通のね感性と感覚を持っている人間というものをしっかりと自分たちで認識できればね。いろんな歴史に関しても、それから災害が起こった時に逃げるとか、助け合おうとか、そういうふうのも、全部ひっくるめてね、つながっているというふうなことが大切なんです。そういうふうな流れの中で、川も海も火山も地震も、湖もあって。そして、1年があって、四季折々の中で我々が生活をしているということ。災害も、恵みも全部一緒にして、現在に至っているというのが、今いる我々が認識しなくちゃいけないことです。

いちこ：大きな流れのなかで考えていきたいです。今日はワクワクする話ばかりでした。身近に教えてくれる人がいるって、本当に恵まれてますね。

加賀谷：いやいや、今日は私のほうこそ勉強になりました。いつでも聞きに来てください。火山マイスターを目指す人に伝えたいのは、生活こそがすべての基盤だということ。赤ちゃんも、中学生も、大人も高齢者もいて、畑も漁業も商店もある。そうした“全部ひっくるめた生活”の上に私たちは生きている。その実感を自分の目で確かめ、自分の言葉で伝えていく。それがマイスターにとっていちばん大切なんですよ。

ZERODAY コラム

自然にやさしい野外活動講座

5時間目

私たちの暮らしは、豊かな自然環境があってこそ成り立っています。それを未来の子ども達に引き継ぐために、私たちはどのように自然と向き合い、野外活動を行なっていけばいいのでしょうか。リーブノートレイスとは、環境に与えるインパクトを最小限にして、アウトドアを楽しむための環境倫理プログラムです。ルールによって自然を保護するのではなく、活動する本人の倫理観によって自然を保護する考え方を学びましょう！

Leave No Trace 7 原則

1. 事前の計画と準備（Plan ahead and prepare）
2. 影響の少ない場所での活動（Travel and camp on durable surfaces）
3. ゴミの適切な処理（Dispose of waste properly）
4. 見たものはそのままに（Leave what you find）
5. 最小限の焚き火の影響（Minimize campfire impacts）
6. 野生動物の尊重（Respect wildlife）
7. 他のビジターへの配慮（Be considerate of other visitors）

温泉街
ZERODAY
11:00〜19:00
洞爺湖町洞爺湖温泉 45
zeroday_toya

原則その6

野生動物の尊重

最近では、国内外で熊などの野生動物による被害や事故が相次いでいます。対策や答えは一つではありませんが、不要な接触や事故を防ぐためにも、野生動物との距離感を3ステップで学びましょう！

STEP 1

野生動物には近づきすぎないように

野生動物は様々な理由で繁殖したり、数が減ったり、移動したりしていますが、彼らは昔からこの場所で生息しています。人間の方から不適切に近づいてしまったり威嚇をすると、野生動物も警戒し、逃げたり、時には攻撃してくることもあります。

野生動物とは適切な距離を取り観察しましょう。追いかけ回したりしてはいけません。

STEP 2

野生動物に餌を与えるのはやめましょう

リスや鳥など、可愛いと思っても、餌を与えることはやめましょう。餌をもらえると思い、人間との不必要な接触が増えます。餌をもらうことに慣れてしまった動物は、野生の中で生きられなくなる可能性も。

STEP 3

人間の食べ物は持ち帰ろう

自然の中に入る際には、持ち込んだ食べ物や食べかすは残さないように配慮しましょう。残してしまった食べ物の味を覚えた野生動物が近くに現れるようになってしまいます。

あの味と、
あの人に会いに。

湖のそばに息づく、変わらない温もり 約40年、地域とともに

Big中華焼きそば　1,300円
創業当初は“大きいサイズしかなかった”という。
野菜はシャキッ、麺は時間が経っても香ばしい。

壮瞥温泉

レストハウス 梓

壮瞥町壮瞥温泉 75-1
11:00~15:00、17:30~20:00
火曜日
0142-75-2634

アプリコットカラーの壁に、三角屋根が映える建物が見えてくる。洞爺湖温泉街から車でほんの5分。湖のほとりに佇む「レストハウス梓」だ。店に足を踏み入れると、厨房から中華鍋の小気味よい音が響く。出迎えてくれたのは二代目の金子祐一さん。鍋をふるうのは82歳の先代・金子時雄さん。「生涯現役。最後は鍋に頭突っ込んで終わりたいって言ってるんだよ」。そう笑う祐一さんの言葉に店内があたたかくほころんだ。

梓が誕生したのは1988年。創業当時、このあたり一帯はビーツ畑が広がっていたという。先代は、かつて保養所の料理人兼管理人として腕を磨き、その経験をもとに店を開いた。十数年後、有珠山の噴火が起こる。結婚を控えていた祐一さんは不安と混乱の中にいた。それでも「こんな時だからこそ」と、地域の方の全面的な協力のおかげで避難所で式を挙げたという。この地の歴史とともに、店も歩んできた。梓のメニューは、洋から中華、和食とメニューの幅が広い。「お客さんのニーズに応じて作ってたらメニューが増えちゃって」と祐一さんは笑う。実は、これでも半分に“減らした”状態なのだとか。

常連さんが人生の節目を報告しにやってくるのも、ここならでは。「結婚しました」。「お父さん、元気にしてるよ」。旅人は一期一会の出会いを楽しみ、地元客は日常を語り合う。梓はいつしか、人がつながる“地域の縁側”になっていた。外国人観光客が多く訪れる今も、変わらないのはその温かな空気だ。「梓で育ってきたし、地元が大好きだから恩返ししたいって思ったんです」。二代目の言葉には、この地と人々への揺るぎない愛が宿る。

洞爺湖メイドの
つくり手探訪

30年変わらぬ味わい 洞爺・四季彩工房の 梅漬

洞爺湖を望む高台地区で、昔ながらの保存食を手がける「四季彩工房」。ここで作られる梅漬は、天日干しの工程を経ない、しっとりとした仕上がりだ。

蕎麦屋と保存食作りを掛け持ちしていた先代のお母さん。忙しい日々の中で選んだ方法が、天日干しのいらない「梅漬」だった。今は店主の加藤順一さんを中心に、主にパートの尾形紀美子さんが30年ほど作り続けている。

レシピは当時から変わっていない。一晩水に浸した梅を、翌日塩としその葉の入ったつゆに入れ、1ヶ月かけてじっくりと漬け込む。ポイントは、しそを3回もみ込むこと。「ちりめんしその方が風味が良いんです」と尾形さん。鮮やかな赤紫色は、洞爺湖町産のしその色だ。

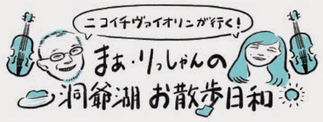
この地域の保存食として親しまれてきた梅漬。四季彩工房では3Lの大粒梅を使うことで、サクッとした食感に仕上げていることが自慢だ。「一度食べて気に入って、送ってくださいって言うお客さんもいるんです。ちょっと緊張しながら詰めるんですよ」と尾形さんは笑う。

白菜漬けや南蛮味噌など年中保存食を作りながら、夏だけ蕎麦屋も営む四季彩工房。忙しさから生まれた梅漬は、今日も洞爺の郷土の味をつくっている。

高台

四季彩工房

虻田郡 洞爺湖町香川 41-3
0142-87-2258



突然ですが、皆さんはアメリカンドッグに何をつけますか?
まぁ「断然ケチャップとマスタード!」
り「そのまま食べる!」
友人「ふふ、砂糖もありですよ!!」
まぁ&り「へぇー!!!」
道東出身の友人によると、砂糖をまぶして食べるスタイルは「フレンチドッグ」と呼ばれ、北海道の縁日などで親しまれているそうです。
移住して4年、おかげさまでご縁に恵まれて、たくさんのことを教えていただけるようになりました。
甘いお赤飯も大好きになった我ら、秋に高台の畑で見たビートの大きな山に感謝の思いを馳せつつ、この冬は「フレンチドッグ」を堪能しようと思います。
あぁ、やっぱり食べらさる〜。

洞爺

ニコイチヴァイオリン

2021 年に洞爺湖町へ移住した、仲良し音楽家夫婦のまぁとりっしゃん。 無償で演奏をしに自宅へ伺う「ウーバーミュージック」やコンサートなどを実施。

nicoichiviolin

移住者だからといって、地域に貢献しなければならないわけではない。まずは自分たちのペースで、この土地の暮らしを楽しんでほしい。けれど、移住して5年目の折原家の歩みを見ていると、その“楽しむ”が地元に自然と染み込み、誰かの力になることもあるのだと感じさせられる。2021年4月に洞爺へ移り住み、翌年には妻・亜紀さんが「コピト食堂」を、続けて水の駅で「TSUDOU」をオープン。2024年には夫・英明さんが道の駅とうや湖にて「コトヤ食堂」を立ち上げた。怒涛の5年だが、湖のほとりを歩く3人からは穏やかな湖畔暮らしの空気しか漂ってこない。

子どもたちを中心に、地域の食材を使った料理をふるまうコピト食堂を始めた背景には、給食センターがなくなるかもと聞いたときの衝撃がある。「給食がおいしいことが移住理由の一つだったのに、それがなくなるのは困ると思って」。そこから地域のルーツに触れ、コロナ禍で交流が減っている現実も見えてきた。「私的な活動ならできることがあるはず」と、コピト食堂をスタート。英明さんが地域おこし協力隊だったこともあり、食卓ではよく“町のこれから”が話題に上っていたという。地域の流れと自分たちにできることを重ね合わせてきた5年間。気づけば、新しい移住者を支えるほどのたくましさを家族にもたらしていた。

移住を決めたのは2019年頃。札幌から毎月通い、洞爺の祭りやキャンプに参加するうちに、「息子の朝日をこの土地でのびのび育てたい」という思いが定まった。「移住者も多いし、ここの子どもたちともすでに友達だった」。引っ越した初日から、まるで帰ってきたかのような居心地の良さがあったという。

「いい町って、“ここで暮らしたい”と思う人がずっと暮らし続けられる町」と亜紀さん。高齢者施設で働いてきた経験から、住み慣れた地域で暮らし続ける大切さを痛感している。「ここにいたい人が、ちゃんとここにいられるように」。その思いが、折原家のすべての活動の源。たまに帰省して都市の急激な変化を見ると、洞爺の良さをあらためて感じるという。「子どもが少しずつ増え、新しいお店も増えている。ゆるやかに変化しながら、衰退せずいい塩梅で維持している。それってすごいことだよね」。

小さな町だからこそ、一人の力が風を起こし、町を少し変えることがある。自分たちで未来を作る感覚を得られるのは、小さな町ならではの特権だ。「…ていうか、自分たちでやるしかないんだけどね!」と笑いながら話す折原家。その言葉には、この地で生きる覚悟と喜びがあふれていた。

洞爺

湖への愛が育てた、移住者家族の大きな力

折原 英明さん(49)・亜紀さん(48)・
朝日くん(11)

だから私たちは
洞爺湖に来た

場所	洞爺地区
移住年	2021 年 4 月
きっかけ	子育て

ヨツカド商店通信

地域のワインを楽しみませんか?

ヨツカド商店ではナチュラルワインを中心に、周辺地域のワインも取り扱っています。地域のワインを知ってもらい生産者を応援したいと、2022年10月から3年に渡り「そうべつ産ワインぶどう収穫祭」「洞爺ワイン祭り」などのイベントを開催してきました。
2025年9月には「アラウスパンザイ(※)」を伊達市内で開催。地域のワインと地元シェフによる料理・スイーツを100人を超える方に楽しんでいただき、これからのワイン文化の醸成を予感させる素晴らしい会となりました。

数年後にはこの地域で育ったぶどうから様々なワインがリリースされます。有珠山周辺の豊かな環境で育ったワインを、ぜひ楽しんでみてください!

カンパーイ

壮瞥 ヨツカド商店
有珠郡壮瞥町滝之町 385-11
10:00〜17:00 (冬季〜16:00)
不定休 (instagram のハイライト参照)
yotsukadoshouten

※『アラウスパンザイ』とは
有珠山界隈(around Mt. USU)のワイン(フランス語 vin)と、祭りを意味する「サイ(祭)」を組み合わせた言葉です。有珠山界隈の豊かな「ワイン」と「食」をみんなで喜び合う「パンザイ」という意味も込めています。

この町をつくった 人と写真

『変遷 第3集(壮瞥町郷土資料友の会)』p.6

生まれは苫小牧で、壮瞥の中心地で育ったんだ。子どもの頃は洞爺湖まで友達と歩いて行って、滝の上あたりの湖畔でよく遊んだもんだ。壮瞥地区には農業やってる子が行く高校しかなかったから、当時はまだ役場のすぐ近くにあった駅から電車に乗って、虻田商業高校まで通った。高校卒業と同時に町を出て、名古屋、苫小牧、札幌と転々としながらいろんな仕事をしたもんだ。25、6歳の頃、有珠山が噴火して、それを機にやっぱり親のこととかいろいろ心配になってさ、帰ってきたんだ。それからずっとこっち。

昭和新山の麓でも19年間くらい働いた。そのあと62歳から町議会議員になった。きっかけは町外に出た娘の同級生の一言だね。「壮瞥に帰っても、楽しそうじゃないね」って。それを聞いて、ショックでさ。帰ってきたいと思える町をつくりたいって。今は児童会の手伝いをしたり、移住者が始めたお店を巡ったり。新しく来た人たちとも仲良くしてるのは、ただ知らない世界を知れるのがおもしろいから(笑。この年でもどこ行ってもまだ若手って言われるし、人口はこれからも減ってく。これはもうどうしようもないよね。少ない人口の中で、どうやってやっていくのか、この町でみんなと考えていきたいね。

壮瞥
居住歴 65 年
毛利 爾(ちかし)さん (72)